



苫前町年代記録

- 天明7年(1787) 慶長年間(17世紀初め)トママイ交易場所開始。栖原家がトママイ場所の経営を松前藩から請負い、運上家を設け、アイヌとの交易と漁業経営を行うようになった。
- 文化4年(1807) この地方は幕府領となるも、文政4年(1821)松前藩の支配に戻る。
- 安政2年(1855) 再び幕領となり秋田藩の警備地域となる。
- 安政6年(1859) 苫前場所庄内藩領となり、翌年から藩士、農民が移住して開拓・警備事業が始まる。
- 文久元年(1861) 古丹別川尻北岸に庄内藩陣屋が建設される。
- 明治元年(1868) 明治維新により庄内藩は陣屋を引揚げ百人以上いた藩士、農民すべて帰国した。
- 明治2年(1869) 開拓使を設置し、蝦夷地を北海道と改称。苫前場所が天塩国苫前郡となる。苫前郡が水戸藩の領地となり、漁民が移住。
- 明治3年(1870) 水戸藩主徳川昭武苫前郡を視察。
- 明治4年(1871) 水戸藩苫前郡支配廃止。栖原家漁場持となる。
- 明治5年(1872) 開拓使宗谷支庁苫前出張所と苫前派出病院を置く。
- 明治6年(1873) 宗谷支庁を留萌支庁と改める。
- 明治8年(1875) 留萌支庁廃止され、札幌支庁に統合。留萌出張所苫前分署設置。苫前局(5等)開設。
- 明治9年(1876) 留萌出張所を廃止し、留萌分署と改称。札幌病院苫前出張所の医師村山謙造、自宅で読書、習字、算数を教え、本町教育の始めとなる。栖原家の漁場持が廃止され、漁業が自由化して漁民がふえる。
- 明治10年(1877) 苫前分署廃止され、留萌分署の管轄となる。
- 明治12年(1879) 留萌に郡役所を置き、留萌外5郡を管轄。留萌分署を苫前に移す。
- 明治13年(1880) 2月9日付の開拓使布達により苫前村、白志泊村戸長役場と力昼村戸長役場を設置。2月29日苫前分署廃止。
- 明治14年(1881) 苫前郵便局設置。留萌分署所を増毛に移し増毛郡役所と改称。藤田万助初めて水稻を試作するも収穫皆無。
- 明治15年(1882) 開拓使廃止、函館・札幌・根室の3県を設置。
- 明治16年(1883) 苫前小学校を公設する(児童25名、仮校舎は稲荷堂)。
- 明治17年(1884) 力昼小学校開設。藤田万助初めて稲を収穫する(水田6反歩)。
- 明治18年(1885) 初めて商店(呉服・雑貨)開業(現在の港)天塩郡、中川郡、上川郡及び苫前郡苫前村・白志泊村・力昼村が苫前の戸長役場の管轄となる。
- 明治19年(1886) 北海道庁置かれる。
- 明治22年(1889) 汽船(遠江丸)初めて来航。
- 明治23年(1890) 鯨漁業が著しく発展し3万石も獲れる(生ニシン約22,500トン)。津軽、南部、福島(道南)地方から移住者が増加する。
- 明治24年(1891) 苫前郵便局電話取扱い開始。香川県の僧石川米吉が郷土の人々に古丹別原野への移住をすすめる。長崎県人伊藤義彪、古丹別原野へ移住(26年説あり)。
- 明治26年(1893) 長舟善明以下5戸の農家石川米吉の斡旋により塩谷から古丹別原野に移住し、30万坪の土地の払い下げを出願。
- 明治27年(1894) 苫前村より羽幌村を分村し、白志泊村を苫前村に編入。合田伊平以下8戸香川県から移住。80万坪の土地払い下げ出願。石川和市、中野政吉他2名が藤田万助の水田4反歩の小作をなし、反収2俵が生産された。
- 明治28年(1895) 古丹別原野の植民地区画測設。苫前市街地区画設定。
- 明治29年(1896) 香川、三重県などから古丹別原野に百数十名の団体移住あり。古丹別原野開拓本格化する。苫前市街大火災(田中屋の火事)。
- 明治30年(1897) オシロシ、オコツナイ原野に移民入地。増毛支庁の管轄となる。
- 明治31年(1898) 苫前原野、力昼原野植民地区画設定。農家に初めて馬入る。プラウ方形ハロー、馬槌も導入される。奈良団体岩見方面へ入植。大水害あり(古丹別川氾濫)。
- 明治32年(1899) 自転車初めて入る(川村徳太郎)。苫前原野の開拓本格化(越中団体、愛知団体、単独移民入地)。
- 明治33年(1900) 苫前村商会設立。日本郵船会社政府補助航路小樽・天塩線臨時寄港開始。
- 明治34年(1901) 藤山汽船道庁補助航路小樽・天塩線臨時寄港開始。古丹別第2簡易教育所(古丹別小学校)開校。
- 明治35年(1902) 4月、力昼村を苫前村に編入し、苫前村に二級町村制施行。苫前小学校校舎新築移転。
- 明治36年(1903) 1月25日大水害(古丹別流域浸水)。
- 明治37年(1904) 日露戦争始まる。苫前村からの出征29名、戦死3名。鯨不漁期に入る。
- 明治38年(1905) 4線に管理人付渡船場できる(長島地区)。長島6線に発動機による製麺、製粉工場できる。農耕馬一般に普及。苫前水産組合設立。
- 明治39年(1906) 船入潤修築運動始まる。菜種の減収のため養蚕盛んになる。
- 明治40年(1907) 大水害あり。
- 明治41年(1908) 堤増太郎により長野県より松山式スキー初めて入る。価格3円20銭。

明治42年(1909)	古丹別原野新区画地測説。		オートバイ初めて入る(ハドソン号、種田幸長)。水稲冷害続く。鯨不漁。
明治43年(1910)	山火事起こる。 岩見の佐藤貞三、苫前で初めて白黒乳牛1頭導入。	昭和11年(1936)	経済更正特別助成町村に指定。 苫前橋竣功。「郷土の調」刊行される。 鯨不漁。
明治44年(1911)	苫前漁業組合設立。 苫前消防組公設。 澱粉製造始まる。 養豚が逐次普及する。	昭和12年(1937)	支那事変始まる。 トラクター初めて入る。酪連古丹別工場(雪印)乳業株式会社古丹別工場)設置。 鯨不漁。
大正元年(1912)	蒸気機関による木工場開業。	昭和13年(1938)	大字を廃止し字名地番を改正する(現在の字名となる)。 鯨未曾有の凶漁。
大正2年(1913)	農作物大凶作(水稲皆無) 西古丹別土功組合設立される。	昭和14年(1939)	村営協同放牧地設置(小川)。
大正3年(1914)	この頃から粟、稲きびにかわり、米が主食となる。	昭和15年(1940)	帝室林野局古丹別出張所設置。
大正4年(1915)	1級町村制施行。増毛支庁が留萌支庁となる。 留萌・苫前間乗合馬橋営業開始。 三溪に大熊出沒、妊娠中の者を含め7人喰殺される参事発生す(12月)。 第1次世界大戦の影響で、数年間農村好況。	昭和16年(1941)	太平洋戦争始まる。 米穀の統制により供出制度始まる。
大正5年(1916)	亜麻耕作始まる。 水田直播機およびストープ等の使用始まる。	昭和17年(1942)	霧立・古丹別間森林軌道敷設される。
大正6年(1917)	苫前村連合青年団組織。 鯨、大不漁。 産業組合(南古丹別信用購買販売利用設立)。	昭和18年(1943)	学徒勤労隊により援農盛んに行われる。
大正7年(1918)	農家経済豊かとなり、農耕地激増する。	昭和20年(1945)	太平洋戦争終わる。 苫前森林組合設立。 三溪・古丹別間森林軌道敷設される。 鯨豊漁なるも稲は凶作。
大正9年(1920)	発動機船初めて入る。	昭和21年(1946)	農地改革始まる。 農業委員会設立。 役場事務取扱い出張所古丹別に設置。 稲不作。
大正10年(1921)	新保村長苫前士別間の道路調査。 南古丹別土功組合設立。	昭和22年(1947)	地方自治法発布、市町村長選挙行われる。公選村長新保福治。古丹別に役場支所を置く。 苫前、古丹別、力昼に中学校設立する。 古丹別営林署設置される。 稲凶作。
大正11年(1922)	留萌・羽幌間に乗合自動車営業開始。	昭和23年(1948)	10月1日より苫前町となる。 この年物価高騰著しく、昭和17、18年頃の約100倍となる。 福岡県人長浜俊秀氏、小川炭鉱の開発に着手する。 苫前町農業協同組合創立(2月)
大正12年(1923)	大水害あり、田畑被害甚大。 電話架設される。	昭和24年(1949)	苫前・士別間道路実地踏査(参加60名)。
大正13年(1924)	苫前市街大火(10月6日、111戸566人、被災損害60万円)。これより新市街地(上町)が発展する。 綿羊初めて入る。 村営住宅を苫前に65戸建設。	昭和25年(1950)	国道239号線(士別～苫前間)道路工事に着手。
昭和元年(1926)	苫前小学校に青年訓練所併設。	昭和26年(1951)	羽幌高等学校苫前分校設置。 町長斉藤孝治郎就任。
昭和2年(1927)	電灯つく。ラジオ取付けられる。 苫前・士別間の道路工事着手。 大正土功組合設立。	昭和27年(1952)	公営住宅建築始まる(この年古丹別に10戸)。 苫前高校独立校となる。
昭和3年(1928)	役場庁舎を苫前393番地(現郷土資料館)に建設する。 岩見集乳所設置される。	昭和28年(1953)	古丹別に厚生診療所開設される。 大水害に加え凶作。
昭和4年(1929)	苫前・士別間鉄道路線調査(鉄道省)。	昭和29年(1954)	台風15号9月襲来により被害甚大なり。水稲畑作共に凶作。
昭和5年(1930)	苫前商工会設立。 大豊作なるも、農作物価格暴落により農家経営困難となる。	昭和30年(1955)	国道232号線(2級国道上平～力昼間)改良工事完了。 木霊謝恩塔建立。 大水害あり。鯨不漁急激に少なくなる。
昭和6年(1931)	鬼鹿一古丹別間鉄道開通。 作物凶作。	昭和31年(1956)	暴風浪により鯨漁夫26名遭難死亡する(4月26日)。 苫前高台を大規模開拓事業として基本調査開始。農作物大冷害。苫前町農業史刊行される。
昭和7年(1932)	苫前船入澗新設工事着手。古丹別・羽幌間鉄道開通。 冷害凶作続く。	昭和32年(1957)	三溪ダム工事着手。
昭和8年(1933)	苫前村産業組合設立。		
昭和9年(1934)	船入澗工事竣功(苫前漁港誕生)。 水稲冷害。		
昭和10年(1935)	苫前両島定期船株式会社設立。		

- 鯉は皆無に等しい状態となる。
- 昭和33年(1958) 苦前崎灯台完成。
古丹別簡易水道工事着工。
- 昭和34年(1959) 古丹別市街に簡易水道完成。
農作物大豊作。
町長川村秀治就任。
- 昭和35年(1960) 道営かんばい事業三溪ダム完成。
苦前高等学校校舎完成。
農協、漁協ともに建物新築。
国民健康保険事業開始。
苦前保育園設置。
しょうこう熱まん延し、患者150名超える。
- 昭和36年(1961) 羽幌線に準急行「るもい」運行される(翌年急行「はぼろ号」となる)。
- 昭和37年(1962) 苦前漁港第3種に指定される。
- 昭和38年(1963) 患者輸送マイクロバス運行開始。
平和の鐘設置。
古丹別保育所、九重へき地保育所開設。
- 昭和39年(1964) 東川小中学校全焼(5月23日)。11月1日より東川中学校を古丹別中学校に統合。
力昼小規模保育所開設。
- 昭和40年(1965) 国道239号線(士別～苦前間道路)開通式(7月17日)。
苦前厚生病院全焼(死傷者4名)。
- 昭和41年(1966) 力昼中学校、上平中学校、豊浦小学校の統合により本町の学校統合計画始まる。
- 昭和42年(1967) 苦前高台国営開拓パイロット事業着工される。
国道の舗装工事始まる。
苦前厚生病院新築。
- 昭和43年(1968) 開道100年、町制施行20年記念式施行。
古丹別緑ヶ丘公園完成。
- 昭和44年(1969) 3町村共同し尿処理施設完成。
苦前両島定期船桟羽幌町へ移転により、苦前航路廃止。
- 昭和45年(1970) 過疎地域として指定される(過疎地域振興法制定)。町史編さん着手。
古丹別小学校統合校舎完成。
- 昭和46年(1971) 国鉄合理化により力昼、上平駅無人駅となる。
国営開拓パイロット事業完成。
稲作転換事業始まる。75以上老人医療費無料となる。
ごみ収集事業着手。
- 昭和47年(1972) 力昼に簡易水道敷設。
九重地区で道営ほ場整備事業始まる。
苦前小学校舎完成。
- 昭和48年(1973) 第1回苦前町表彰式挙行。
苦前市街電話ダイヤル化なる。
郷土芸能くま獅子舞結成。
苦前臨海水道完成。
広域消防スタート。
- 昭和49年(1974) 上平共同利用模範牧場預託開始。
第1回町民凧あげ大会開催。
- 昭和50年(1975) 町長名畑隆雄就任。
苦前町総合振興計画(10年計画)策定に着手。
上小川防水ダム着工。
国営総合かんばい事業調査はじまる。
- 第1回歩行者天国古丹別で開催(翌年より苦前との両地区で開催)。
道営ほ場整備川北地区着工。
樺太三船慰霊碑建立。
- 昭和51年(1976) 第1回牧場まつり開催。
古丹別中学校校舎完成。
グリーンヒルキャンプ場設置。
苦前老人福祉センター新築(公衆浴場付)。
幼牛哺育センター完成。
古丹別局電話ダイヤル化なる。
留萌中部森林組合発足(羽幌町と合併)。
救急車を消防古丹別支署に配置。
- 昭和52年(1977) 丸山林道全線開通(8,100m)。
留萌伝染病隔離病舎組合加入。
霧立集落無人となる。
交通安全憲章制定。
古丹別簡易水道九重、長島地区に拡張。
「交通安全宣言の町」制定。
「健康の町づくり宣言」制定。
- 昭和53年(1978) 力昼局電話自動化。
道営ほ場整備東川地区着工。
第1回町民マラソン大会開催。
雪印乳業古丹別工場閉鎖される。
川村秀治氏名誉町民称号授く。
3町村衛生施設組合のごみ処理施設羽幌町に完成。
上小川道営防災ダム起工。
開基100年記念映画開始。
- 昭和54年(1979) 温泉公衆浴場付住民センターオープン。日帰りレク施設として好評を受く。
U局苦前テレビ中継局となる。
苦前中学校舎完成(体育館は学校開放用として建てる)。
役場及び古丹別支所庁舎並びに、苦前消防支署庁舎建設位置決まり翌年度着工をめざす。
酪農近代化団地造成事業始まる(54～55年)。
- 昭和55年(1980) 東映テレビ映画「熊嵐」現地ロケ始まる(3月)放映(11月)。
町民憲章、町の木、町の花、新苦前音頭制定。
農民総合整備計画策定の地区指定受ける。
6月29日開基100年記念式典挙行。
役場新庁舎(消防署苦前支署庁舎併設)着工(8月)。
児童会館増築(役場支所併設)。
住民センターに町内第1号のソーラーシステム採用。
第1回苦前町鞍馬競技大会開催。
- 昭和56年(1981) 古丹別屠畜場閉鎖(3月)。
第3種苦前漁港整備完成港となる。
苦前町総合振興(後期)計画策定。
苦前地区と古丹別地区に商工住宅団地造成。
冷水害や台風で農作物に大打撃(被害額3億9千万円)。
三重県長島町と「友好町」の締結される。
役場新庁舎(消防署苦前支署併設)完成(12月)。
苦前海浜レクセンター及び駐車場整備完成。

- 苦前地区に歯科診療開始。
小川、東川、岩見3地区の水道布設工事着工(2カ年計画)。
古丹別営林署改築される。
- 昭和57年(1982) ウィンターコミュニティ施設建設。苦商高に柔剣道場新設。
古丹別営林署庁舎完成。
全世帯に役場庁舎のパンフと記念茶碗配布。コンブみその初仕込み。
「くま獅子舞」を町無形文化財第1号に指定。勤労者会館完成。
上平シーサイドに「展望台」と「夫婦愛の鐘」完成。
幻の芋「蝦夷錦」発見。
上平郵便局閉局、初の炭焼きはじまる。
友好町長島町と第1回直産フェア開催。
名誉町民川村秀治氏逝く。
「苦前町史」発刊される。
苦前町にライオンズクラブ誕生。
- 昭和58年(1983) 力昼生活館完成。
友好町長島町から農協婦人部一行41名来町。
苦前小学校開校100周年迎える。
- 昭和59年(1984) 苦前町郷土資料館完成(3月オープン)。苦前町スポーツセンター完成(10月オープン)。
力昼小学校開校100周年記念式典。
修栄大橋、岩見橋完成。
地籍調査スタート。
- 昭和60年(1985) 北大理学部地震、地殻変動「苦前観測所」完成。
苦前町体育協会20周年記念式典挙行。
苦前神社創立200年奉告祭。
地まきホタテ水揚800トン。
国道239号線通年開通。
- 昭和61年(1986) 「新苦前町総合振興計画」スタート。
苦前海浜公園整備完成。
香川三線埋蔵文化財発掘調査。
霧立峠休憩施設完成。
苦前町くま獅子保存会、北海道文化財保護功労賞受賞。
第1回とままえの味「どっさりまつり」開催。
- 昭和62年(1987) 特別養護老人ホーム(50床)完成。
香川6遺跡、埋蔵文化財発掘調査。
幻のニシン32年振り群来(94トン)。
国鉄「羽幌線」廃止(3月29日)国鉄代替バス運行。
町長久保田徳満就任。
苦前町文化協会20周年記念式典挙行。
市町村対抗ふるさと自慢うた自慢全道大会優勝。
三溪小学校開校80周年記念式典。
上平、古丹別バスターミナル完成。全町水道一元化拡張事業完成。金刀比羅橋完成。
道立苦前商業高等学校改築完成。
- 昭和63年(1988) まちおこし対策推進協議会結成(5月)。
苦前町野球場完成(7月)。
第1回フルマラソン100m駅伝大会開催。
- 道北地区ふるさと自慢うた自慢ニューフロンティア賞受賞。
第1回転入者サミット開催(11月)。
3町合同救難防災訓練。
平成元年(1989) 1月7日元号を「平成」と改まる。
町制施行40周年。
「留萌やん衆どすこほい」ばんばで一般男子「苦前ひぐまⅡ世」優勝。
「防犯の町」宣言(3月)。
まちおこし対策推進協議会第1回目の「提言書」提出。
苦前保育園設立30周年創立35年式典。
そ菜予冷庫完成。
第3回ツール・ド・北海道通過(10月)。
道立近代美術館秀作展。
ふるさと創生事業決まる(シー・フロント開発、ななかまどの館、まちのイメージづくり)「はまなす国体の火」苦前町を走る。
苦商高の校舎改築落成記念式典。
苦前町交通安全協会設立20周年記念式典(11月)。
苦前町婦人団体連絡協議会結成30周年記念式典(12月)。
古丹別歯科診療所完成(12月)
- 平成2年(1990) 苦前町開基110年迎える。
三溪小学校83年の校歴閉じる(3月)「留萌やん衆どすこほい」ばんばで「苦前ひぐまⅡ世」男子重量レースで優勝。
役場庁舎内にCDコーナー設置(4月)考古資料館オープン(5月)古代の里着工。
副読本「苦前町のむかしむかし」刊行。
まちのイメージ案内看板設置。
苦前の焼酎「とうきび畑」発売。
三毛別罷事件の現地復元される(7月)農村公園完成(10月)第1種力昼漁港完成。
苦前スポーツ広場完成(6月)
- 平成3年(1991) 苦前町凧あげ大会「生涯学習のまちづくり百選」となる(3月)統一地方選挙で久保田町政第二期目スタート。
苦前町農業振興計画パートⅡスタート(4月)「ななかまどの館」オープン(5月)新公民館建設工事着手(7月)三毛別罷事件の大熊モニュメント完成(8月)
- 平成4年(1992) 苦前町酪農協同組合と苦前町乳牛検定組合とが合併し、苦前町酪農組合として再スタート(4月)歴史体験ランド「古代の里」オープン。
パークゴルフ場「苦前からまつコース」「古丹別緑ヶ丘コース」オープン(5月)香川地区開拓百年記念式典挙行(7月)苦前町初の劇団「井の中のカワズたち」旗揚げ公演(10月)
- 平成5年(1993) 苦前町公民館オープン(2月)第1回北海道凧あげ大会開催。

- 苫前町ライオンズクラブ創立10周年記念式典。力昼小学校グラウンドにパークゴルフ場オープン（5月）
 B&G海洋センターオープン（6月）
 横路知事ふるさと訪問事業「市町村サミット」が苫前町で開催（7月）。
 苫前町子ども会育成連絡協議会設立30周年記念式典（9月）
 北留萌消防組合古丹別支署無火災1000日達成（10月）
 道営ほ場整備事業完工記念式典（11月）
- 平成6年（1994） 苫前小学校で自校給食開始（1月）
 長島寿の家完成（1月）
 苫前町デイサービスセンターオープン（3月）
 苫前町郷土史研究会「苫前ふるさと散歩」第1集発刊（3月）
 昭和地区道営農地開発・草地整備改良事業が完工（3月）
 第3種苫前漁港第9次漁港整備事業着工（9月）
 力昼小学校開校110周年記念事業挙行（9月）
 苫前小学校開校110周年記念事業挙行（11月）
- 平成7年（1995） 古丹別地区で学校給食開始（1月）
 北留萌消防組合古丹別支署無火災1500日達成（2月）
 苫前町農協婦人部40周年記念祝賀会（2月）
 交通事故死ゼロ500日達成（3月21日）
 第13回統一地方選挙の結果、久保田町政第3期スタート（5月）
 古丹別開基100周年記念式典（6月）
 長島開基100周年記念式典（7月）
 苫商高がサハリン学校交流で生徒初派遣（7月）
 岩見開基100周年記念式典（9月）
 九重開基100周年記念式典（9月）
 国営かんがい排水事業苫前ダム定礎式（10月）
 苫前剣道連盟創立30周年記念式典（10月）
 苫前町体育協会創立30周年記念式典（11月）
 声楽家大友幸世さん故郷の古丹別で初コンサート（12月）
- 平成8年（1996） 町内最高齢者坂本チソさん100歳の誕生日迎える（2月）
 苫前町郷土史研究会「苫前ふるさと散歩」第2集発刊（3月）
 漫画家矢口高雄さん熊事件復元現場を取材（4月）
 苫前町消防団創立100周年記念式典（6月）
 ホワイトビーチ、オートキャンプ場完成（6月）。オープン記念イベント「風風風・裸舞inとままえ」開催（7月）
 交通事故死ゼロ1000日達成（8月2日）。
 小川開拓100周年記念式典（10月）
- 平成9年（1997） 「ふれあいトーク」で堀達也知事来町。日本海地域振興で住民と懇談（1月）
 古丹別地区流雪溝試験投雪（3月）
 無形文化財「苫前町郷土芸能くま獅子舞」に少年団誕生（4月）
 リバーサイドパークゴルフ場（古丹別）オープン（6月）
 苫前町ホームページ開設（8月）
 苫前町ライオンズクラブ創立15周年記念式典（10月）
 苫前町文化協会創立30周年記念式典（11月）
 苫前町農業協同組合創立50周年記念式典（11月）
 苫前町名誉町民に瀬川正一氏（第2号）、石井秀弘氏（第3号）称号授く（11月）
 古丹別地区流雪溝完成で通水投雪式、利用世帯172戸で管理運営協議会を設立（12月）
- 平成10年（1998） 35年の歴史に幕、九重へき地保育所閉所（3月）
 新日本海地域交流センター温泉掘削工事着手（5月）
 旭開拓100周年記念式典（6月）
 リバーサイドパークゴルフ場国際コースに認定（8月）
 新日本海地域交流センター自噴温泉の成分結果出る、毎分139リットル、湯温48.5度（9月）
 苫前グリーンヒル・ウインドパークで2万キロワットの風力発電事業着手（10月）
 国営かんがい排水事業苫前ダム管理センター完成（11月）
 とままえ夕陽ヶ丘ウインドファーム「風来望」第1号機完成し本稼働開始（12月）
 九重地区コミュニティセンター完成（12月）
- 平成11年（1999） 苫前土地改良区総代選挙執行（2月）
 新日本海地域交流センター建設着工（2月）
 苫前町地域振興券交付（3月）
 第14回統一地方選挙執行、議員選挙では初の無投票当選となる（4月）
 ㈱ドリームアップ苫前を設立（4月）
 久保田町政第4期目スタート（5月）
 町農協組合長花井忠昭氏が北海道信用農業協同組合連合会副会長に就任（7月）
 豪雨で史上最悪の被害、総額16億3千万円を超える（7月28日）
 自然エネルギー促進議員連盟設立準備総会で9名の国会議員、町営風車及び上平2万キロワットの風車群を視察「北海道宣言」を採択（9月）
 交通安全協会30周年記念式典（9月）
 とままえ夕陽ヶ丘ウインドファーム・風来望に第2号機完成（10月）
 苫前町自治体ネットワークシステム供用開始（10月）
 苫前ウインビラ発電所が3万600キロワットの風力発電事業に着手（10月）
 苫前グリーンヒル・ウインドパーク国内最大2万キロワットの風力発電が商業運転開始（11月）
- 平成12年（2000） 苫前町生きがいデイサービスセンター開設（4月）
 苫前町開基120周年記念事業「NHK真打ち競演」ラジオ公開録音を開催（4月）

- 新日本海地域交流センター「とままえ温泉ふわっと」オープン（5月）
- 平成13年（2001） 苦前町開基120年記念「花火大会」並びに「風のコンサート」開催（7月）
- 苦前厚生病院新築移転着工（8月）
- 苦前町くま獅子少年団「国際民族芸能フェスティバル」に出演（10月）
- 苦前ウインピラ発電所が商業運転開始（12月）
- 地球温暖化防止活動大臣表彰受賞（12月）
- 特別養護老人ホーム「苦前幸寿園」ショートステイ5床増設（12月）
- 平成14年（2002） 「第3次苦前町行政改革大綱・実施計画」策定（1月）
- 第3次苦前町総合振興計画・後期策定（2月）
- 第5次社会教育中期振興計画策定（3月）
- 高齢者事業団設立10周年記念式典（4月）
- JA 苦前厚生病院オープン、内科・小児科・外科の3科開設（9月）
- 苦前商業高等学校創立50周年記念式典（9月）
- 苦前町情報公開制度並びに個人情報保護制度スタート（10月）
- 国土交通省都市景観大賞「美しいまちなみ賞」上平グリーンヒルウインドファーム周辺地区が受賞。（10月）
- 古丹別小学校開校100周年記念式典（11月）
- 国土交通省手づくり郷土（ふるさと）賞（地域整備部門）を夕陽ヶ丘ウインドファーム「風来望」が受賞。（11月）
- 平成15年（2003） 役場庁舎ロビーへ「風車情報表示システム」を設置（2月）
- 完全学校週5日制開始（4月）
- 衆議院経済産業委員会において久保田町長が「電気事業者による新エネルギー等の利用に関する特別措置法案」審議で参考人として熱弁（4月）
- 苦前町名誉町民に名畑隆雄氏（第四号）称号授く（7月）
- 住民基本台帳ネットワークシステム供用一部開始（8月）
- 苦前町遺族会創立50周年記念祝賀会（8月）
- 東川開拓百年記念式典及び東川会館新築オープン（9月）
- 岩見ふれあいホール新築（9月）
- 苦前町ライオンズクラブ設立20周年記念式典（10月）
- 公営住宅「北斗団地」が国土交通省「住宅月間功労者表彰」受賞（10月）
- 苦前町シルバープラザ（町福祉センター併設）オープン（11月）
- 平成16年（2004） 第1回北海道省エネルギー・新エネルギー促進大賞受賞（3月）
- 第15回統一地方選挙執行（町議1議席減の13議席）。町長選に森利男氏初当選（4月）
- 森町政第1期スタート（5月）
- 苦前、羽幌、初山別、天塩の4漁業協同組合
- が1月1日合併に向け、仮調印（9月）
- 力昼漁港胸壁を活用した壁画13作品のりきびる「港の美術館」オープン記念式典（9月）
- 苦前小学校開校120周年記念式典（10月）
- 上小川ダム（道営防災ダム）完成（11月）
- 平成17年（2005） 苦前、羽幌、初山別、天塩の4漁協が合併し、「北るもい漁業協同組合」設立（1月）
- 苦前町農協女性部設立50周年記念式典（1月）
- 留萌中部三町村任意合併協議会設立（3月）
- 古丹別支所が苦前町公民館へ移転（4月）
- 上平ウインドファーム内で大型蓄電研究施設着工（4月）
- 合併協議が留萌中部三町村合併協議会へ移行（6月）
- 北海道障害者スポーツ大会フロアバレーボール・サウンドテーブルテニス競技開催（7月）
- 第1回北海道風車まつり開催（8月）
- 台風18号で道路や家屋、農漁業施設に甚大な被害、被害総額9億4千万円（9月）
- 苦前沖海難事故1名死亡行方不明3名（11月）
- 留萌中部三町村合併協議会解散（11月）
- まちかど対話212で高橋はるみ知事、上平の大型蓄電研究施設を視察（11月）
- 苦前町有形文化財第1号に鯨建網船用材運搬用具「修羅」指定（11月）
- 苦前町くま獅子保存会「ふるさとづくり賞（振興奨励賞）」受賞（11月）
- 友好町三重県長島町、桑名市・多度町と合併し「桑名市」となる（12月）
- 震度5強の激震苦前町を襲う（12月14日）
- 力昼小学校閉校。120年の歴史に幕（3月）
- 公共下水道苦前地区供用開始、苦前下水浄化センター通水（4月）